

事務事業評価シート (評価対象年度：平成30年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名	和泉砂川駅周辺整備事業					②事業番号	5108
③事業類型	5. 普通建設事業			④開始年度	平成 28 年度	⑤終了予定年度	年度 ○ 設定なし
⑥根拠法令等	○ 法令	条例	規則	要綱	計画等	その他	法令等の名称 道路法
⑦実施手法	直営	全部委託	○ 一部委託	補助・負担	その他		
⑧関連予算科目コード	款	7	項	4	目	7	細目 1
⑨担当部名	都市整備部			⑩担当課名	道路課		会計 一般会計

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)	対象指標(対象者数を表す指標)	単位
① 道路利用者	① 総事業費	千円
②	② 計画延長	m
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)	活動指標(活動の量を表す指標)	単位
和泉砂川駅西口の交通広場の整備を含めた道路事業を実施する。 道路計画延長L=250m	① 投資済額	千円
	② 整備済延長	m
	③	
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)	成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
駅前混雑を解消させて安全性・利便性を向上させる。 特に通学路ということもあり、児童の安全の確保を図る。	① 整備率(事業費ベース)	%
	計算式 投資済額/総事業費	
	② 整備率(延長ベース)	%
	計算式 整備済延長/総延長	
	③	
	計算式	
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)	総合計画体系上の位置付け	
市内の主要拠点を結び、市の骨格となる幹線道路の整備が促進される。	政策(章)	5 快適で活気にあふれ、環境にやさしいまち
(5-2-6-1)和泉砂川駅周辺の整備につながる	施策大(節)	2 活気にあふれるとともに快適で美しく、市内・市外がネットワークで緊密に結ばれ、だれもが使いやすいまちをめざします
	施策中	1 道路の整備
	施策小	1 幹線道路の整備

〔2〕各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	
対象指標①	総事業費	千円	364,000	364,000	364,000	364,000	—	指標値の推移における特殊要因などの説明
対象指標②	計画延長	m	250	250	250	250	—	
活動指標①	投資済額	千円	85,323	131,909	156,775	315,602	—	
活動指標②	整備済延長	m	—	0	0	0	—	—
活動指標③								
成果指標①	整備率(事業費ベース)	%	23	36	43	86	—	
成果指標②	整備率(延長ベース)	%	—	0	0	0	—	事業費などの推移における特殊要因などの説明
成果指標③								
事業費	投入人員	人	0.90	0.62	0.64	0.64		
	正職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	任期付職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
事業費	人件費(投入人員*単価)	千円	7,229	4,979	5,188	5,188		—
	直接事業費	千円	85,323	46,586	24,866	158,827		
	総事業費	千円	92,552	51,565	30,054	164,015		
財源内訳	国庫支出金	千円	40,135	25,589	13,202	86,449		—
	府支出金	千円	0	0	0	0		
	受益者負担金	千円	0	0	0	0		
	その他特定財源	千円	27,900	19,900	9,700	63,600		
	一般財源	千円	24,517	6,076	7,152	13,966		

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	都市計画道路砂川樫井線と信達樫井線を和泉砂川駅周辺で結び、交通広場を整備することで利用者の安全性・利便性を向上させ、交通の円滑化を図るため。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	交通の円滑化を図るため早期供用開始が期待されている。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	—

3. 事務事業の評価【CHECK】

〔1〕目的妥当性(必要性)

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔1〕の評価

A

評価項目	評価及び理由・説明等	
①事務事業の意図すること(目的)は、上位施策(施策小)の達成に貢献しますか。	ア. する イ. ある程度 ウ. しない	幹線道路どうしをつなぐものであり、移動がスムーズとなり、利用者の安全性・利便性が向上する。
②税金を使って達成する目的ですか。 (市が関与する必要がありますか、市民(特に納税者)の納得が得られますか。民間に類似サービスはありませんか。)	ア. はい イ. ある程度 ウ. いいえ	社会資本整備総合交付金を活用することで達成できる事業である。
③対象範囲、単価、事業費規模は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)	ア. 合っている イ. ある程度 ウ. いない	定められた諸基準に適合するよう、計画・設計をしている。
④事務事業を休止・廃止した場合、市民生活(あるいは上位施策)への影響はありますか、ある場合それは大きいですか。	ア. 影響がある イ. ある程度 ウ. ない	交通混雑の緩和のため、幹線道路の整備が必要である。

〔2〕有効性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔2〕の評価

B

⑤期待どりの成果が得られていますか。	ア. 得られている イ. ある程度 ウ. いない	水路改修工事を実施し、道路開通に向け前進した。
⑥今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができませんか。)	ア. ある イ. ない	関係機関との協議を進めることにより、成果向上の余地を検討する。
⑦庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。	ア. 類似なし イ. できる ウ. できない	他部署で類似の目的を持つ事務事業はなし。

〔3〕効率性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔3〕の評価

B

⑧成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費＋人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)	ア. ある イ. ない	設計内容の精査により、コスト削減を目指す。
⑨受益者負担の適正化余地はありませんか。 (歳入確保はできませんか。)	ア. ある イ. ない	都市計画税が充てられている。

4. 総合評価

総合評価	評価(A～D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A: 現状のまま事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休止・廃止の検討が必要
	A	道路利用者の安全性・利便性の向上が期待できるので、供用に向け鋭意取り組む必要がある。	

5. 改革、改善案【ACTION】

<今後の方向性>

ア	ア. 現状のまま継続 イ. 見直しのうえで継続 ウ. 終了 エ. 休止 オ. 廃止	(年まで) (年から) (年から)
	<今後の展開方針> a. 重点化する(集中的なコスト投入) b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) c. 効率化する(コストを下げる) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する)	
①改革、改善の具体案、実施年度など		—
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策		—